

## 今月の特別記事

# 平成の開国と地域の活性化

藤沢 久美

シンクタンク・ソフィアバンク副代表  
社会起業家フォーラム副代表  
法政大学 専門職大学院 客員教授

(本稿は、平成23年2月17日に盛岡市で開催された講演会の要旨を事務局にて取り纏めたものです。)

## 1. 成長する国、低迷する国

最近3年間で約20カ国を訪問しました。途上国、新興国が多いのですが、こういった国を訪れると、「元気のある国と元気のない国の違いとは何か」を考えます。元気な国はスピードがある国です。意思決定が早い。そういう国は、どちらかというところ専制政治の国です。王国、共産党一党支配などです。逆に、なかなか前に進めない国というのは民主主義的な国です。アメリカ、日本、EU諸国など、民主主義で物事を決めようとして、結局決まらなくなっています。

なぜそうなったのか。それは、次なる社会の秩序が見えないからです。スピードをもって試行錯誤してみるしかないからです。国も、企業も、同じだと思います。

ただし、専制主義的な政治をやっている国は、確かに今、大変なスピードで変化していますが、それと同じくらい大変なスピードで草の根の力がどんどん高まっているので、世界はまだまだ混迷するでしょう。

たとえば、インターネットは、抑制しようと思っても難しい。国として決められた価値観の中で生活していても、新しいものがどんどん入ってきます。ですから、当面、10年というオーダーでなかなか世界の秩序というのは落ち着かないだろうと思います。加えて、食料や資源の問題があるので、混迷は続くでしょう。

しかし一方で、この草の根の流れの恐怖という不

安があります。すでに日本でも起きていますが、草の根の力が、激しい勢いで世の中に影響を与えています。しかし、みんなが暴走して、結局ファシズムを起こすようなリーダーを選んでしまう可能性があります。

その意味では、本日ご参加の企業経営を担う皆様の役割は非常に重いと思います。大衆という大きなムーブメントを作る人たちの中で、人々のリーダーである皆様は、良識を持って物を判断して、どうあるべきかを考え、発信する役割が非常に重いのです。皆様の役割は、ご自身の企業の経営をどう良くするかということ以上に、今この地域や国において、みんながムードに流されて変な選択をしないようにリードするという非常に大きなものではないかと思っています。

## 2. 教育投資が国を繁栄させる

世界各国で共通にあがってくるテーマの一つは、「教育投資」です。

例えば、新興国、途上国のレベルでは、人口が大幅に増えている中で、働く場を用意しなければなりません。雇用を創出するためには、優秀な人材の育成が必要となります。

これは、もちろん国のレベルでもやらなければいけません。なかなか国で教育体制を変えるのは難しい面があるので、企業の現場でどうやって人を育てていくかを考えなければいけない時代だと思っています。

また、個々の企業の問題としても、今、人材育成は非常に重要です。皆さんのビジネスも、どっちへ行ったらいいか、なかなか分かりにくくなっていな



#### 【藤沢久美氏のプロフィール】

1989年 大阪市立大学卒業後、国内外の投資運用会社に勤務。  
1996年 日本初の投資信託評価会社、アイフィスを起業。代表取締役を務める。  
1999年 アイフィスを世界的格付け会社スタンダード&プアーズ社に売却。同社ディレクターに就任。  
2000年 シンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。取締役を務める。  
2003年 ソーシャル・アントレプレナーを支援する「社会起業家フォーラム」を設立。副代表に就任。  
2004年 シンクタンク・ソフィアバンクをMBOし、副代表に就任。  
2005年 法政大学ビジネススクール イノベーション・マネジメント研究科 客員教授に就任。  
2007年 世界経済フォーラム（ダボス会議主催）により、ヤング・グローバル・リーダー2007に選出。

いでしょうか。そういう時に一番アイデアが出るのは経営者・トップの方なのですが、ただ、今の時代、昔ながらの価値観を活かしつつ、その価値観を現実化させるツールが非常に近代化してしましました。昔ながらの価値観、哲学と、新しい社会の道具を使う新しい価値観とが協働しない限り、時代の主流になるものが生まれにくくなっていると思うのです。

つまり、新しい発想を持った人に新しいチャレンジしてもらわなければいけない。そこで出てきている動きは、「新卒しか採用しない」という会社が増えていることです。なぜ新卒しか採用しないのか。新しいチャレンジができる人材を育てるためです。新卒を採用し、徹底的に会社が目指している方向を共有する教育を行うのです。

人材育成というのは、もちろんスキルを教えることも大切ですが、昔よりもさらに大切なことは、混迷を迎えた時代だからこそ、皆さんがお持ちのビジョン・哲学を、そして一人ひとりの社員が確実にそれを共有したときに新しいものを生み出す力が発揮されるのだということを、信念を持って伝え、語るのではないかなと思います。

### 3. 地球規模で考える

現代は、日本の各地域が直接海外の地域とつながる時代です。一国一制度の時代ではありません。必要な政策は地域によって違うのだから、地域で制度を作り、地域で仕組みを作り、それに合った外国の地域と連携するということを考えるべき時代なのだと思います。

その意味では、岩手国というくらいの気持ちで、

世界各国が貿易や外交をやるのと同じように、岩手という国が日本の国内の地域として、EUの各国がEUとして物を考えるように、岩手という国が日本という共同体の中でどういうことを考えるか、という気概をもってもいい時代が来ているのではないかなと思います。

### 4. 憧れの国、日本

外国に行くと、日本に憧れているという人が大変多いです。貧しい国の人々ほど、日本みたいになりたいとか、日本のような社会をつくりたいと言います。

実際今の日本は、ハングリーな時代を経て、成熟した社会を迎えましたが、それに伴う「負」の部分を抱えているのも事実です。

私は、世界人類がハングリーな中で成長していき、成熟化していったときに、その先に、さらにまた新たな意味で豊かになっていこう、ということを考えるべき時代だと思います。そして、その具体的な姿を見出す役割を担っているのが日本です。アメリカやヨーロッパは、移民というハングリーエンジンを社会の中にビルトインして、また成長していますが、日本は、移民を受け入れていない。ハングリーエンジンがない中での成長を考えようとしているのは世界初の試みです。先進国の中でも最も新しい課題へのチャレンジです。

その意味では、リーダーである皆様方に、新しい人類の生き方の発明、新しい会社のあり方の発明に取り組んでもらうことが、実は、究極の世界の人類への貢献だと思います。